

コラム

みやちゃん とご一緒体験記

Vol.53

地域の居場所について・・・

日本の国力が低下しつつある現在、歴史的円安の影響で外国からの労働力が減少、GDPは、アメリカ・中国・ドイツにつぐ4位に転落したというニュースを聞き悔しさが募ります。専門家の意見では、じきにインドにも抜かれるだろうと推測されているだけに。

かつて、世界各国に日本人観光客でにぎわいブランド品を買いあさる時代がありましたが、現在は「受け入れる」側に回り、経済力がないため魅力のない国となり、外国人が落としているマネーに頼らざるをえなくなっている……情けない経済国家となった日本の各地にはコロナ禍後、外国人観光客で溢れ、浅草を生活圏とする私は複雑な思いで過ごしております。圧倒的な数を誇る中国の方々の領域を、日本人で台東区民の私が歩いているような気になってしまい、高度経済成長期に少女期を過ごし、社会にでてからはバブル経済の美味をしっているだけになんとも口惜しい限りです。少子高齢化社会において誰もが老後の心配をしている中で、こんなに弱り切った日本経済の現状を目の当たりにすると、こんな国で老年期を過ごすことに不安を感じる人が少なくないでしょう。

そんな中、台東区のメインイベントである三社祭は5月中旬に終了し、神社仏閣が多い地域ですので6月にはいってからも毎週のように夏祭りが行われています。私も地元ですからできることで関わり祭りをサポートさせていただいております。地縁の濃い土地ですから、祭りの盛り上がり方は尋常ではありません。いつも住民の居場所を守ってくださっている神様に感謝を捧げるために……。年齢を重ねるほどに地域の祭りが好きになり、開催されることに安心感を覚え自分の居場所を実感しています。あれこれ考えておりましたら、台東区の健康サポート薬局（ケイ薬局）の薬局長であ

る宮原富士子さん（みやちゃん）も居場所についてつぶやいておられました。

~~~~~2024-6-21 宮原富士子FB~~~~~

**【若い人たちが職種を超えて集う場所はあるか】**

時代が変わり、生涯就職でなくなった今、入っても転職が当たり前、転職しながら自分の生活を支えたり自分磨きをするっていう時代に。

これって本当は結構大変なことなのかもしれない、と昨夜、若者と一緒に飲んでいて思ったのです。合わないと辞める、が簡単になった一方で雇う側の要求水準もあがり、背伸びした条件であればミスマッチング、アンマッチングは当然おこるし。転職関係の業者の営業もすごいし、おだてられてそうかなと思って条件にして就職すれば、雇う側がえっと思うようなスキルであったり。そういう環境で生きてゆく若い世代の男女が息抜きして本音を吐けるような地域の居場所は大事じゃないかなあと。

浅草だって居酒屋の常連の高齢化⇒顧客減少もあるから地元中堅がそういう場所を使って、疲れたら飲みにおいでよ、話そうよという機会はその土地の魅力になるかもね。

なんて、昨日は焼酎のみながら妄想抱いてました。

緊急避妊薬のややもややもやもやもあるけど、まあ丁寧に地道に誰のためにを大事にして、その1回ずつの面談を大事にして、これも若者の居場所かもしれないなって思ってます。前向きに考えていきます。

ところで、私たちの住む地球が悲鳴をあげているような気がします。地球沸騰化の影響による異常気象でありえない災害が当然のようにおこるようになっていきますので、防御の知恵や工夫もアップデートする必要がありますよね。地球沸騰化をくいとめて「キレイな地球」を次世代に継承するのも、私達一人一人の使命だと思います。